C-92

第五回内國勸業博覽會

案内記

附

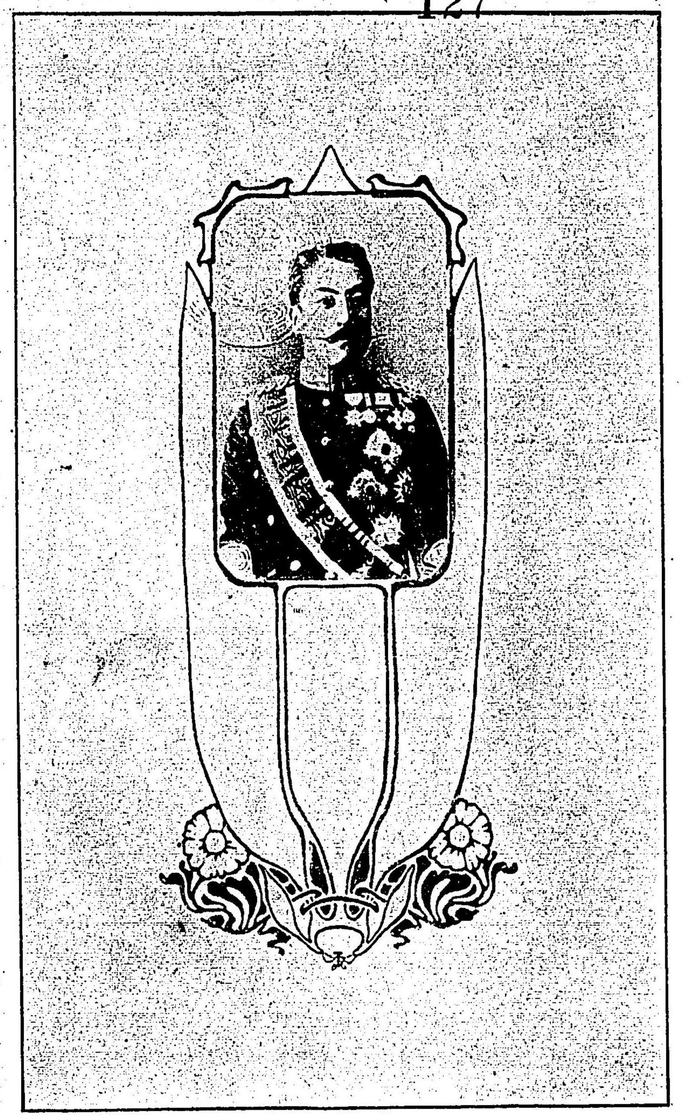
京都市街展望

221
579

第五回内國勸業博覽會平面圖

水族館平面圖
水族館
動物園
動物園
家禽園
教育館
美術館
工業館
製作工藝
化學工藝
陶器
窯業
紡織
染織
繊維
農業館
林業館
水産館
産業館
園芸
園芸
園芸

水族館平面圖
水族館
噴水
噴水
噴水



第五回博覽會總裁閑院宮殿下御肖像

圖之門正會覽博業勸國內回五第

第五回內國博覽會附屬水族館之圖

博覽會案內記

目次

○大正門○工業館（絲及絹類、染織物類、採鑛及冶金、化學製品、醸造品、陶磁器、塗物類、製作工業）○農業館○林業館○機械館○通運館○動物館（家畜）花卉、盆栽、苗木、參考館○加奈陀館
冷藏庫○救育館○陸海軍兵器類○噴水塔○楊柳觀音像噴水器○美術館○式場○協賛會の舞臺○大日本體育會○臺灣館○大阪喫茶會の茶室○協賛會接待所○郵便電信支局
○博覽會事務局出張所○各府縣賣店○各府縣事務所○協賛會○大阪出品協會○水族館○龍神噴水器○官幣大社住吉神社○大阪城○貯水地○行在所○四天王寺○高津神社

○桃山○造幣局○泉布觀○天滿神社○難波橋○梅田驛○
大阪府廳○築港事務所○大阪博物場○第五回內國勸業博
覽會
附錄　大阪博覽會と瀨戸內海

博覽會案內記

目次終

博覽會案內記

大阪朝日新聞記者　木崎好尙　古我雅芳　共編

ことし明治三十六年三月一日より七月三十一日まで我大阪市南區今宮天王寺に於て開設さるゝ第五回內國勸業博覽會は我邦にありて空前の大仕掛にして敷地面積に就きその事例を舉ぐれば明治十年の第一回博覽會にありて二萬九千八百坪、同十四年の第二回四萬坪、同二十三年の第三回四萬三千三百坪（以上東京）二十八年の第四回（京都）に五萬坪なりし者今や進んで之を擴大し實よ十萬八百八十坪の大地域を要するに至りその建坪の如きも第一回の三千五百坪なりしに比して第五回の今日は實に一萬五千坪となりしにてもその一端を想察するを得べく大日本帝國の國光、戰後の餘威を發揚するに足り所謂萬國大博覽會の素地を造るべき斯かる大機關の施設を見るにつけても全國の實業家は今後一層の奮進を要せざるべからざるなり

されば博覽會觀覽のため內國は言ふも更なり遠く淸韓兩國をはじめ歐米諸國よりの來遊者は果して如何ばかりの多數に達すべきか內外和親の實を擧げ貿易發達の機會を逸せず單に來遊者をして博覽會その物を觀覽せしむるに止まらず大阪といふ實體を擧げて之を示すのみならず近くは堺(博覽會の別館たる水族館の所在地として)をはじめ神戸、京都、奈良、和歌山その他岡山、廣嶋、高松等諸府縣を示し否日本全國を擧げてこれを來遊者の視察に供すべき千載一遇の好時期を迎へ得たるを思ひ現在及び將來よ要する大覺悟は我同胞諸君の胸中すでに確立せるものあるべしと信ず大阪を視、近府縣を視進んでは日本全國を視んとする來遊者の足は先づその第一步か博覽會場よ着くべけれは博覽會場の案內はさしづめ來遊者よ供する大阪人の責任なるべく玆には本館より始めて場內場外の摸樣を示し以て來遊者をして滿足に博覽會を觀覽するの便宜を得せしめんとす

博覽會場よは三門を開き **大正門** は西(日本橋筋方面)に設けられ逢坂門は北(松屋町筋方面)に、阿部野門は東(上本町筋方面)に在り、大正門は卽ち會場の大入口

よして其前には舊商業倶樂部の庭園を利用修築して、美觀を添へ三大噴水の一なる龍ノ口噴水器を控へ其左(逢坂通り)に接續して各府縣賣店の一なる愛知縣賣店は夫の金の鯱鉾の閃ける名古屋城を摸造したる三棟つゞきの建造物を以て高く自から標置し噴水器の右方に聳ゆる東京府賣店の西洋風造築の美くしきに對して左右より大正門を護れるもの〻如く他府縣の賣店は卽ちこの東京府賣店に接續して南、關西鐵道線路の所在地間に擴がり別に餘興觀覽物の設備多し又阿部野門の東手一帶の地區も諸興行物及び飲食店等の私設建設物多く夫々の趣向を凝うて博覽會觀覽者の足を留めしめんとせり此等の案內よ至りては後章別に之を說くべし

さて大正門を入りて先づ左手の本館たる工業館より觀覽を始むるを順路とすべし、

工業館 は間口五十五間、奥行百三十八間の大建築物にして第一に觀覽者の眼に入るは第六部(染織工業)第二十九類の

絲及綿類

の出品なりとす、（こゝに一言すべきは出品の陳列法は博覽會規則第四條に示さるゝ、如く各館に於て部類別の下に府縣別より由りたれば此絲及綿類の彙められたる中には諸府縣たの〳〵其區別を立て、優劣を爭へるなり以下之に同じ）次は同部三十類の

染織物類

よして此一區域は工業館内の呼物の一にして面積尤も廣く大阪のモスリン、京都の染物織物より關東關西各本場の染織物卽ち日本生産の重要部を占むる物類を陳列せる處とて内外人の注目すべき部面なれば特にその府縣脈を述べんに左手には山形、群馬、埼玉、山梨、靜岡、神奈川、岐阜、滋賀、その向側卽ち右手には北海道、青森、岩手、宮城、福嶋、秋田、茨木、千葉、長野、栃木、新潟、富山、石川、福井、三重、奈良、和歌山、兵庫は相對しその折曲りの隅よは東京の出品あり曲りて左手よは愛知、大阪、京都相並び其向側卽ち右手には鳥取、嶋根、廣嶋、山口、香川、高知、大分、岡山、愛媛、德嶋、沖繩、鹿兒島、宮崎、熊本、長崎、佐賀、福

岡、京都（南側に跨る）の順を以て染織物は網羅せられ意匠の新なる色彩の麗はしきいづれか觀覽者の視線を惹かざるものやある、而してその最も廣大なる面積を占むるはさすが京都よして大阪これよ次ぎ東京、群馬、愛知等亦其次に位せり、染織物類を覽了りて第四部（第十七類、第十八類、第十九類）たる

採鑛及冶金

の陳列場に入り次は第五部化學工業（第二十類第二十一類）たる

化學製品、釀造品

の部に入る、これにて再び折曲りて同第二十二類の

陶磁器

を覽て又折曲り同第二十八類の

塗物類

の陳列場に入り次に第七部の

製作工業

を通覽するゝ金屬製品（第三十一類）武具（第三十二類）及び雜工作品（第三十三類）と日常吾等の使用せる諸器物は此處に羅列せらるゝなりこれにて工業館を周覽したる譯にして更に其中央の大通路より進まば左右顧眄その意の向ふ所ゝ隨うてその觀覽を縱まゝにするを得べく其間處々に空地を存し三井、三菱、村井其他諸工場の特殊なる製品陳列場の點々散在せるを見るべゝ之を通じて陳列場の尤も意匠を凝らせるは塗物の部にて靜岡縣が淺間神社の眞景を象どり特產の塗物標本として之を塗上げ左右の廻廊内ゝ出品物を裝置せるを第一とし大阪府の如きは別に私設增築館入口に嚴めしく巍立せる山門をしつらへその内部の梁間一面ゝ豐公ゝ因める千成瓢

簞棚を造りて人目を集めんとせるは兎角の評判あれど觀覽者をして注目せしむる甲斐はあるべしその他の意匠のたもしろきは數ふるに遑あらず觀覽者自由に之を批評し之を點檢せんも亦一興なるべし

東京府は別に私費增築の一館を工業館本館の西北手に設け其正面を石造擬ひにして　天皇陛下臨幸あらせ玉はん折の便殿に充てまゐらせんとせり其用意の在る所以て察すべきなり

工業館を隔てゝ其間に二箇の大花壇を控へ南手ゝ相對立せるは卽ち農業、林業、水產の三館（一棟つゞき）とし

農業館

は大正門の右手につゞきて矩形を爲し中程に

林業館

を挾み水産館に連れり此三館は從來の例に徴すれば出品外觀の趣味に乏しき爲に動もすれば觀覽者の目を注がしむるゝ足らず當業者の研究ゝのみ留まりしを今回は陳列方法ゝ尤も意を用ひ頗る裝飾的趣味を加へたる出品者の注意ありて中々に意匠の觀るに足るべきもの多く北海道の水産部の如き殊ゝ其趣向の巧妙なるを賞すべし林業別館としては更に掛出造りの細長き一棟本館の西南部ゝ在り其他臺灣別館（林業）及び大阪硫曹肥料會社の出品館これに附屬せり

農林水産館の大通路を出でゝ東南部に近く更に二箇の本館の建設ありこれを

機械館、通運館

とす、この二館は今回特に勸業上政府の意を用ひて之を設計せしものとて最新の發明に係る出品少からず機械館には蒸氣、電氣の諸作用を示すべきより以て製茶、製織、諸製造及び印刷諸機械ゝ至り概ね之を網羅しその動力を供給すべき機關室之に附屬し（煙突共）其他大阪茶業組合の製茶所及び井上帳簿製造所、鈴木製糖機械

室等の設けあり、通運館にありては遞信省、鐵道作業局、及び各府縣を始め日本郵船、大阪商船両會社、三菱造船所、山陽鐵道、日本鐵道會社、住友鐵鋼所等の大仕掛なる出品は刮目するに足るものあるべし

通運館と農林水産館とに東北二面を包まれ會場内の西南隅三角形を成せる廣濶の地域あり

動物館、家禽室（牧夫舍共）

は此方面に在り其他の空地は

花卉盆栽苗木

の用地として別樣の風致を具へ動物館は左右の二棟相對しその開期は時季を擇びて五月一日より同十五日迄及び同二十六日より六月九日迄の三回と定めたり、濕室は殊ゝ目新らしき仕組にして四方硝子を以て包まれ時ならぬ美花の馥郁たるを玩ぶべ

ぐ外に裝飾用植物を陳列せる圓形の廣場の周圍は之を競馬場に利用せり、此方面は場外なる前述の各府縣賣店地に接し殊に關西鐵道場内停車場より通ずる別門より の出入口に當り軌道は延いて通運、機械等の諸館に敷設せられたり

參考館

は今回の博覽會ゑ始めてその開設を見るべき特種の本館にして有らゆる外國製品の粹を拔き以て本邦勸業上に資する所あらしめんとせるにて萬國博覽會の萌芽は卽ちこゝに發生せんとするなり、その出品は先づ機械類を主とし運轉すべきものは一々動力に由りてその作用を示し諸製產品とゝもに館内に出陳して其精美を競へり、本館の位地は機械館の東南方なる要部を占め造作には殊に意匠の觀るべきものあり、參考館の西南二方にはワイルベルゲル商會、ヘラー商會及びマッヘイ機關車製造會社の私設別館あり又

加奈陀院

は加奈陀政府が特ゑ日本貿易增進上の施設として建造せしものに係り同國農務大臣フキッシャー氏以下技師其他の官吏紳商等多く渡來して其事に從ひフォン館とアンドルス館と相並びて優に米大陸の實業振りを場内に衒へり

冷藏庫

は加奈陀館の東南に在り、アンドルス館の西北、工業館との間には

敎育館

あり館内を周覽して工業館の東北に近く

陸海軍兵器類

の館外出品あり吳造兵廠及び館内外なる東京、大阪兩砲兵工廠の出品は國防上の要具として其運轉を示し尙武の氣風を養はしめんとし探海燈の夜間實驗の如き尤も

入場者の眼を驚かすに足るものあらん

機械館と教育館との相對立する中央大道路には花壇に挾まれて

噴水塔

あり魏立せる房屋より瀉ぎ降れる噴水は夜間各色の電燈に映發して的爍たる美觀を發すべく丘陵上なる

楊柳觀音像噴水器

と相對して場内の光景を新たよし人目を怡ばしむるものあらん

これにて場内平坦地の部面は大略その觀覽を終れり是より東一帶の丘陵は住友家の別邸地を隔てゝ茶臼山に連れる勝地にして前には西面せる美術館を望みその登り口には卽ち楊柳觀音像の噴水器あり池中の巖上に端嚴柔和なる白衣大士が身を峻嶒の上に托して慈眼を垂るゝ脚下にはうなゐ子三五水邊よ嬉戯して鷺鳥が羽を伸し頸を

延べつゝ今や飛立たんかとも見ゆるところ珊々たる清韻は灑々たる水勢と共よ遊覽者の心耳を澄ますに足り顧みて今來し方をふりさけ見れば大正門は花壇なる噴水塔を隔てゝ遙に下界に聳ゆるものゝ如く左右よ雲の如く連なれる本館の建築見る目もあやに美はしかるべし其傍には奏樂堂あり

美術館

は約五百六十坪の建坪を有する優美なる大建築物にして繪畫、彫塑、美術工藝、同圖案模型、同建築の圖案模型類（第十部）を陳列し各種美術家の手腕を揮ひたる美術品は國家の精華として玩賞するに餘りあるべし、樓上には玉座を裝飾し天皇、皇后兩陛下東宮兩殿下行幸啓あらせらるゝ折の御休憩所に充てまゐらするなり、美術館の後方（東）に宏廠なる一宇ありこれを

式場

とし開場式、褒賞授與式および閉會式其他の儀式を執り行はるゝところゑ充つ、その背面に

協賛會の舞臺

あり開期中夜間開場（四月以後日曜土曜水曜の豫定）の時を主としその他好機を見はからひ大阪協賛會の催しにて藝妓の手踊などを演奏する餘興場にして大林の高塔は高くその頂上を壓して中天に聳ゑ阿部野門の入口正面の處に當れり、阿部野門の入口南手には

大日本體育會

の出品館および遊戯場あり各種の運動用具を備へその背後の丘下には關西鐵道列車の往復頻繁たり、體育會の對面には

臺灣館

の奇異なる建築あり、これぞ故北白川大將宮殿下が臺南御進討の日御宿營と定めさせられし篤慶堂の建物をありのまゝに輸送し來りて新に組立てたるものに係り中央に池を穿ちて奏樂堂をしつらへ四方の房屋を總督府はじめ一般の出品陳列所に充て門廡柱壁のさま親しく臺灣に遊びてその物ゑ接するが如く場中珍らしき趣向の隨一なるべし、臺灣館を出でゝ西行すれば美術館の北手一帶に全國書畫倶樂部をはじめに日本赤十字社の出品場、宮内省御料局の出品家屋（御殿造り）及び飲食店等多くエビスビール會社の不恰好なる麥酒樽の大造り物は美術館に近き丈け看る目の障りとやならん

これにて略場内を一巡し了りたれば元の楊柳觀音噴水器の前を通りて丘上の西南角に立てる

大阪喫茶會の茶室

に入りその宇治の鳳凰堂になぞらへて造れる意匠を賞し澁茶一ぷく眸を放ちて阿部

野の廣地はるかに木津川沖の漫々たる海波に對して心神を憩しむべくその隣地には

協賛會接待所

あり協賛會員は何時にても休息勝手たるべし大阪毎日新聞社の新聞縱覽所もこれに隣れり

丘上を降りて北に折れ逢阪門の方面に歩みを移せば此處には無數の飲食店、休憩所あり籠をつらぬ店をならべ全國教育水休憩所もその間に在り、場外茶臼山の池を利用して催せるウオターシユート（潜水艇）の遊戯場へも通ずべく逢阪門の西手には

郵便電信支局

あり、その南手は奏樂堂あり、支局の背面（北）には岩谷の眺望樓あり商標館あり不思議館あり岐阜長良川の鵜飼あり、不思議館は歐米諸國にて新奇を爭へる學術的諸興行を催し殊に米國の女優カーマンセラ孃一行が電氣燈を應用して演せんと

する舞踊の如きは確かゑ呼物なるべし

博覽會事務局出張所

はその西手ゑ當りて逢阪通に出入門を搆へその西手に夫の愛知縣賣店ありいざや

各府縣賣店

の順路を案内せん、前にも述べたる如く愛知縣と東京府との両賣店はたの〳〵特殊の建造物を以て左右より博覽會の大正門を挾み東京府賣店の南方には諸府縣の賣店甍をならべたり、宮城外七縣の奥羽館、奈良縣の春日造り、福岡縣の紅白石だゝみ兵庫縣の洋風建築いづれも美觀を具へ大阪府は最も廣大なる面積を有すれど建物には何の意匠も施されず、京都府も一旦御所造りの設計なりしかど中ごろ之を見合せてたゞの建前となしたり、その間にはさまりて動物園其他の興行物あり會場内に於ては買約を結ぶに止まり出品物を即賣せねばみやげ物として各府縣の特産物を求め

んとする人々は此方面に雜沓すべくその盛況こそ想はるれ

各府縣事務所

博覽會に對して各府縣は出品事務其他を處辨せんためその出張所を大阪に設け四天王寺より生玉方面に達する谷町、下寺町間の各寺院を借入て執務の便を圖れり

協賛會

住友吉左衛門氏を會長に、商業會議所會頭土居通夫、市長鶴原定吉両氏を副會長に推し會員組織を以て寄附金を募り以て博覽會の盛を圖り觀覽者の便を謀り接伴所としては場内よその建設物あり、中之島公園には公會堂を新設し案内記を編纂し餘興催し物を設備勸誘し軍艦、大阪城、築港等の觀覽の斡旋、瀧車瀧船の割引交渉を爲し其他着々來遊者迎接の方法を講じ居れり、

大阪出品協會

市長鶴原定吉氏會長の下に出品、賣店、庶務、會計の各部長を置き出品願書、目錄解說書、陳列箱の調製、裝飾、出品の看護、賣約の事其他を取扱へり

水族館

博覽會の水族館は堺市大濱公園に在り、舊砲臺の地域を拓き、二階造りの洋館を建て(二百十八坪)事務室の外塔槽、貯水池等を設け本館の階下には魚槽數十箇を劃しその水中の光景は岩石層疊の狀これを山城保津川の眞を摸し(理學博士飯嶋魁氏の意匠)庭園は案内省技師福羽逸人氏の設計にて佛蘭西式に據りその中央に

龍神噴水器

を据附けたり、龍神の神聖なる乙女の立姿は高さ八尺五寸あり、右手に捧ぐる珠より電光を放たしめ脚下の圓柱には八箇の龍の口をしかけて噴水せしむ、別に本館入口の中央にも童子が水盤を捧ぐる噴水器を設けたり、本館の傍らには又錦鯉池あり本館の右手には築山を造り四阿を設け一たび之に登らば茅渟海の絶景言ふべからず紀淡の海峽、攝播の遠山呼ばゝ答へんとす、その他園中の處々に小丘をしつらへ種々の花卉を培植し飲食店、休憩所の設け多く場外、大濱の料理店と共に遊覽者を待てり

水族館の樓上は　陛下臨幸の折玉座よ充てまゐらすべく堺協贊會の手にてその設備殘る方なく整へられたり

大阪博覽會に來遊の內外旅客は十中の八九まで必ず南海鐵道の便に由り

官幣大社住吉神社

の參拜を兼ね水族館を見舞はんとを樂しむべく堺市の繁昌は想察するに堪へたり

大阪博覽會および之に關する施設の一斑と堺水族館の案內はすでに略說明し盡したり、以下大阪市內其他遊覽の栞を揭ぐべし

陸よは官設鐵道の外、山陽、關西、南海、高野の諸線に由り海路よりする人々は關西同盟滊船、郵船會社其他の船舶に依り梅田よ、天王寺(若くは博覽會場)に、湊町に、難波に、西道頓堀に乃至川口に來着し博覽會の觀覽を終らばさしづめ豐太閤の遺烈を偲び今は第四師團司令部の置かるゝ

大阪城

に登りて天守臺上眺望をほしいまゝにすべし天守臺には日本美術協會大阪支會の願を容れ司令部は種々の設備を爲すことを認許したれば遊覽者の好都合此上もなかるべく夫の有名なる黃金水を汲みて茶味を賞し上水の

貯水地

をも縱覽するを得べく加之司令部の正室は博覽會の開場式(四月中旬頃)に臨幸の日には

行在所

に供へられて當夜は城東練兵場(約十萬坪)に協賛會催しの大烟火あり、大阪朝日新聞社より募集當選したる『大阪市歌』の歌意に據りて仕掛烟火の意匠を凝らせりといへばその盛觀は如何ばかりなるべき、大阪城を周覽したる上は先づ聖德皇太子の創立し玉ひし

四天王寺

に抵りて七堂伽藍を見物せば待賓館にては休憩の便あり、頌德會の事業たる世界無比の大釣鐘は今や鑄造の功を竣りて衆人の縱覽に供せられ(鐘樓建設迄は鑄型のまゝ)五重塔の登臨亦自由なるべし、官幣大社生國魂神社も路の序に拜すべく、人をして大阪の古へを仰がしむる

高津神社

へも同時參拜するを便とす、仁德天皇の高津宮址は產湯の味原池の畔に在り、故小松宮彰仁親王殿下の御染筆を以て題銘せられたり、產湯一帶の高原は俗に

桃山

と稱へ桃花水暖かなる頃ほひ滿目の紅霞は亦得がたき風光なりとす、大阪城より北へ廻らば大川に架する天滿、天神の二大鐵橋は宏麗其比を見ず、川崎よは

造幣局

の巨觀ありて淀河の流に俯しその對岸櫻宮の長堤は櫻花に名あり、新淀川橋の架設より由りて此方面との交通便利を極め橋の西畔には宮內省の有に係る

泉布觀

の洋館あり、今は美術協會支會の借用を許されて博覽會期中は美術品を蒐集して盛なる展覽會を開設す、上水の水源地は櫻宮の北にあり縱覽自存なるべし、天滿には

天滿神社

あり、東京淺草のそれと同じく神社の附近は市の北方に於ける遊覽場にして七月二十五日夜の船渡御は堂島川より松島より至る水路を利用して執行せられその盛觀は全國第一の名を擅まゝにせり

難波橋

の河上には納涼臺の設けありその四邊よは夏時遊舫織るが如く妓を載せ酒を携さへて納涼の盛んなること亦海内無双の稱あり、河幅の廣き、水の清くして淺き、決して

これを他に求むるを得ず、橋西よは大阪ホテルあり、豐國神社あり公會堂あり、圖書館（新築中）あり、川を隔てゝ控訴院よ對し公園といふ名は其實を得ざれど左右に堂嶋川、土佐堀川の流れを控へ市塵の迷離たるもこゝらあたりは先づ散歩の興を損はず、日本銀行大阪支店の大建築物は今や其工事成り翼然として淀屋、大江二橋間に聳立せり、大阪朝日、大阪毎日の両大新聞社は川を隔てゝ斜よ對立し郵便電信本局は肥後橋の北に在り、大江橋よりは新道路を拓きて

梅田驛

に達すべからしむ、その西位には堂嶋米穀取引所あり、株式取引所は北濱に在り、曾根崎新地は小春治兵衛以來世に其名を知られたる遊廓なり

船場に入らば諸會社銀行の重なるは大抵その市街にその門戸を爭ひ繁華第一なる心齋橋筋は直に南海鐵道の難波驛に通じ上町よては松屋町南北に貫通して北、長柄より一直線に天神橋を渡りて博覽會の逢阪門に達すべし、その他堺筋（日本橋筋）は船

場より直に博覽會の正門に抵るを得べく名高き新町の遊廓を始め道頓堀左右の南地五花街及び堀江、松嶋の諸遊廓には粉黛の美人爭うて其妍をきそひ芝居は角、中、浪花の三座を推し千日前には諸興行物盡夜を分たず

大阪府廳

は市役所と同じく江ノ子嶋ょ在り、他年築港の大工事竣成の上は大阪市街の中央点なるべく近く安治川口を控へ天保山には

築港事務所

を置き安治川、木津川の落口を抱き込みて新港灣を形成せんとし水面の内百五十坪を埋立て新市街地となさんとせり、淀川改修工事と共に府下の二大工事たりとす、（水道工事は已ょ完成に近し）

大阪博物場

は府の施設に係り東横堀川本町橋の東詰ょあり、場内に美術館、賣店及び大廣間を設け博覽會期中は種々の設備あり

之を要するに大阪の都會たる、四季遊覽の觀に乏しと雖も商取引の盛んなる、製造工業の雄なる全國第一に位し烟突の烟は全市を罩め『烟の都』の名の世界に藤くと共に『水の都』として知られ水路の縱横に通ずるは以て公園の少きを補ひ小舟の來往ょ利するに足り三方に平野を控へて西に港灣を有する天然の好位地は大阪繁昌の源たるべく都市としての今後の發達は誰かその究極するところを知らん、今や萬國博覽會の準備たる

第五回内國勸業博覽會

は實ょ此地に開かれ内外人士來遊の盛なる宏古未曾有の觀あるに至り之に對する市民の待遇振りと將來の覺悟とは果して遺憾なきものあるか、茲に案内記の一小冊子を編して之を來遊人士の前に致すょ當り併せて感懷の一端をほのめかすは亦市民の一、人として聊かその責務を盡さんとするの微意に外ならざるなり

博覽會案内記 終

「附錄」 大阪博覽會と瀨戸内海

（大阪朝日新聞轉載）

記者、一日、現時我邦の海法學者として令名ある、法學博士松波仁一郎氏を東京麴町區下六番町の宅に訪ひ、揭題の談話を聽く所あり。博覽會準備時代にある今日、當事者、及び一般人士の留意に値すべきを信じて之を筆記し、別よ箇々の小畫を挿みて、其說の流傳を廣くせんとす

抑も、瀨戸内海の大觀たる、上、萬葉の歌人にうたはれ、下、觀光外客の激賞を買ひ得たり。かの千島萬嶼、松を髮にし、巖を腰よし、海天一碧なる邊り、穩波に乘じて其遊賞を擅にす、氣象萬千、左視右顧、人をして應接に遑あらざらしめ、蓬萊の仙島も、龍宮城も、眞に詩人の想像に出でざるを疑はしむるものあり。加之、沿岸の名蹟勝區に富める、神代史の傳ふる所は更よも言はず、皇祖御東征の一大史跡は、人をして懷古の情に堪へざらしめ降りて歷代の史と、何れの代にか因緣を有せざるはある、活ける一幅の帝國文明史と稱するも、誰か其れ然らずと謂はん。

若し夫れ地の靈を數へんか、日本三景の一に數ふる嚴島の綺麗なる、鳴門觀潮の豪宕なる、應神天皇が『淡路島いや二並小豆島いや二並よろしき島々』の御製を留めさせ玉へりし、淡路島、小豆島の明媚なる、須磨、舞子の灣又灣、青松白沙畫も亦及ばざるの觀ある、尾道、輌の海上一帶、島嶼錯落たる、屋島の山、高松の城、髣髴海市を望むが如くなる、何れに適くとしてか、賞心樂事を極むべからざらん。嗚呼、我瀨戸內海は實ゑ自然美界の一大博覽會たるなり。

夫れ、明年の大阪博覽會たる、帝國戰後の大名譽を以て萬國大博覽會の素地として夙ゑ關西の覇權を握れる、我大阪市ゑ開設せらるれば、此好機を以て外客を迎ふるに際し、其れをして一たび瀨戸內海の遊賞に、彼が夢寐の間ゑ想望しけん樂意を充さしめんか、其の爲に瀨戸內海の大觀の、世界に冠絶せるを知了せしめ、延いて大日本帝國を宇內ゑ廣告せしむるに足り、而して、其解纜と歸帆と、必ず我大阪市に由るの情は、卽ち瀨戸內海といふ一大園池が、取りて以て我大阪市が博覽會に對する、天與の一大設備とするに餘りあるを知らば、博士の談說は、必ずや、局に蟄

覽會に當れる人士の、其實行を急ぐに躊躇せざる所なるべし、『大阪博覽會と瀨戸內海』、請ふ其論調如何を聽け。

日本人

は行ふ人にあらずして、言ふ人だと云ふ論が、此頃やかましく、自分も畢竟は言ふ人になつて仕舞ふかも知れないので、殊に博覽會などに就ては少しも關係が無いから、博覽會に關する意見などは未だ定つたことはなく、殊に一定の事柄を言ふに就ては眞に言ふに止るのであるけれども、事柄は海事と關係もあり、又かねく

瀨戸內

に就ては考へて居る點もあるから、聊か此際博覽會との關係を述べて、若し自分の話した事を實行しやうと云ふ人もあるならば、理論だけのことであるけれども、知つて居るだけは其人ゑ尙詳しくれ話もして、多少の助力を爲やうと思ふ

元來此の瀨戸内海のことは、地圖を見ると甚だ歐羅巴の

地中海

に似て居る、是は先づ瀨戸内海を見てから地中海を見ても、歐羅巴の地圖を先きに見て、然る後日本の瀨戸内を見ても其長さの工合と云ひ、格好と云ひ、入口の有樣と云ひ、知らぬ者は殆ど同じものであらうと思ふ位である、固より一は非常な大海であつて、殆ど大洋と云つても宜いのであり、一は甚だ小さいもので、ある點から言へば

手水鉢

の如くであるけれども、其割合を問はずして形を云ふ時よは、殆ど同じものゝやうよ似て居るのである、先づ地中海で云へば一つの入口はボルトサイドで右の端にあり他はジブラルタルで左の端よある恰も我瀨戸内海の右の入口は

淡路海峽

になつて、左の入口と云はうか出口と云はうか、馬關海峽がある、固より第三の海峽たる豐後、伊豫の間よ一の海峽があつて、是は地中海には見られぬ所であるけれども、此第三の口と云ふものは他の二つの口に比べては、比較的に世間に知られぬものであつて、是は内海よ於ての實用は外のものより餘程劣つて居るから、是は先づ省いても構はない

ジブラルタルの砲臺

は天下の有名なものであつて、英吉利は之を守つて居れば何處の艦隊も之よ這入ることは出來ないと云ふが、我馬關の海峽も砲臺に於ては地勢の工合と云ひ自然の調子が、どうしても敵の艦隊をして無事に通過せしめないやうになつて居る、往年馬關の砲擊の際には我邦は尚未開で一藩の力を以てやつたのである、そして敵は其當

時の最文明國であつたから敗けたのは據ろないが、是は到底戰爭と云ふべき程のものでないから、先づ今日の景況で言へば、眞の海戰を馬關に於てしたと云ふことは言へないと思ふから、從つて一遍も之が壞されたとは言はれまい、又其細さから言つても、ポルトサイドは殆ど二町よも足らぬものである、馬關海峽は短い所では殆んど二町もあるまいから此點から言ふもよく似て居る、砲臺のことは知らぬながらに自分が思ふに、紀淡海峽の砲臺と云ふものは餘程必要であつて、是が先づ日本で一二を爭ふから、歐羅巴で一二を爭ふ、ジブラルタルの砲臺と同視しても宜からうか、英吉利のポツマス軍港の砲臺は立派であるけれども左程有名でないが、之を倒されては英吉利が殆ど佛蘭西は破れらたと言つて宜い位であるが、其邊の海が甚だ淺くして潮流が變る度ゑ砂の在る所が違ひ、佛蘭西の艦隊が無暗に入込では自分で砂ゑ乘上げることになるからして、是が英吉利のポツマスを自然に防いで居ると云ふとは彼の地で彼の士官から聞いたが馬關海峽も是と同じやうに思ふべきかも知れぬ、是はほんの餘計の話であるが、先づ、両口は斯の如き風である、それから東

西が非常に長く、南北は到る處に點々相接する、彼の地で言へば右の方はグリースとそれに群島、有名なクリート島から阿弗利加の方に續いて居るし、眞中で言へば伊太利、シ、リー島を以て昔のカルセージ、彼のテニス邊に續いて居るし、尙又モルターコルシカ、サルデニヤ等を以て點々して居るのが、丁度我邦の小豆島、伊豫の島々などがあつて連つて居り、又馬關の入口に千珠滿珠の島があるが如くに似て居ると思ふ

地理上の話は先づ此位にして

歷史の工合

を見るに、是は多少異動がある、彼の國の開化は右から始つて左に及び、フエニシヤの海商が盛になつて、其傍にロード島と云ふ島がある、是が殆ど一時は地中海の全權を握つた、其處で出來た海商法と云ふものは世界の海商法の模範になつて今でも海商法の沿革を述ぶる者は先づ之を第一に數へる、餘程能く出來て居つたから

して彼の有名な羅馬法でも之を變へることが出來ず其儘に羅馬法に採用したのであつて其勢力が地中海に蔓延して居つたからして、羅馬法王をして嘆息せしめ『朕は陸上を支配し、ロード海法は海を支配す』と言はしむるに至つた、是ゑ對するものは先づ瀬戸内ゑは無いやうに思ふけれども、後ゑも言ふが

大阪の慣習

が瀬戸内を支配したと云ふことは事實だらう

フエニシヤの開化が衰へてカルセージに移り、又希臘に移り、有名なアゼンスに於て文化の花を開き、これより羅馬が天下を統一することになつて非常ゑ盛大を極めそれから暗黑時代が來つて夫れが濟んで、再び商業が歐羅巴ゑ勃興する時に、伊太利が中心となつてウエンスピサ、ゼノア、フローレンス等に銀行業、爲替業、運送業が起り、それが今日の

世界の商業の中央

と仰いで居つて、自分達が銀行法、手形法を講義する時にも、先づ沿革を此の伊太利に指を數へるそれより段々と航海が盛になつて、有名なコロンブスが亞米利加を發見してより

歐洲の海權

は西班牙ゑ移り、西班牙に次でセルビヤが天下の海を横行し、それが和蘭に移り、英吉利に移つて今日英吉利が旺盛を極めて居ることは世人の知る所である、之を瀬戸内に見るに、大阪邊で商業が起つて多度津や今治が盛になり、尾道、廣島邊が盛ゑなり、長州が盛ゑなつて、北に廻つて、出雲邊が盛になると、それで終るのであるけれども到底さう云ふ事實がなく、自分の歴史の研究が足りない爲か、一度盛になつた

大阪が何時でも瀬戸内を支配

して居る、初めに羅馬が天下を取つた時よ、地中海は羅馬帝國の池であつた如く

瀬戸内海は日本の池

であるけれども「彼の地に於ては地中海なる池の覇者は常よ變遷して居るが、日本の池たる瀬戸内海の覇者＝此覇者と云ふのは商權の意味で云ふのであるが＝其覇者が常に大阪に存して居るのは

大阪の名譽

であらうが、政權に於ては或は京都に移つたこともあり、江戸に移つたこともある今日は東京にあるけれども今でも

商權は大阪

にあると信ずる、自分が曾て商業慣習を全國に調査することを單獨で引受けて、法

典編纂の時期が迫つて居り、到底單獨で總てを調査することは出來ぬと思ふたからして、重なる都會を探ることにしたが、先づ東を先にせんと仙臺より始め、盛岡青森に到つた、所が仙臺に於て非常に大阪に似た慣習を發見した、それから、陸中陸奥に到つた時に其慣習は益大阪に似て來て居るから、土地の舊家に就て大阪との關係を聞いた所が、總ての商品殊に銅其他の物は、津輕海峽を越ね、日本海を渡り馬關海峽を越ねて、瀬戸内海を通り

大阪にて始めて相場

が付て賣買するのである、然らばナゼ最も近い江戸へ持つてゆかなかつたかと言ふと、其人曰く、其時よは江戸は北部と海上の緣が無かつた、間に港が無いのと、往つた所で商品の相場が定まらないから、左の方を廻り日本海が荒れるやうであるけれども、荒れた所で漂着する所は極つて居つて江戸へ往く途で荒れられて漂流する程の事はないと云ふことは、其時分の船頭も知つて居つたらしく思はれる、殊よ大

阪へ往けば必ず直段も付き、商賣もあつたものであるから大阪へ往つた、其品が廻り廻つて、熊野浦を渡り、遠州洋を越ねて江戸へ往きましたと斯う云ふことを言つたので、其位ならば慣習の似て居るのが分るかと思つてそれから、北海道へ渡つた所が、是亦非常ょ大阪に似て居つた、殊に小樽、函館に至つては大阪の慣習を或は半分、或は七分も持つて居るやうに思うた自分が爲以らく大阪を最も離れて、素人が見ればどうしても江戸ょ似て居らねばならぬ土地でさへも、大阪に似て居るならば大阪より西は、大阪の慣習を持つて居るのは知れたことである、然らば一擧して大阪を調べれば、先

日本の商慣習

を調べたと云つても、此急場の場合ょは濟むであらうと思つて、直に歩を轉じて大阪に引返したそれで大阪で調べた其時ょ、大阪の諸君に色々御厄介ょなつたが、併し唯想像だけでは濟まぬと思うたから、廣島、馬關、長崎等に到つたが、現に廣島

あたりは西の大阪と云つて誇つて、成るべく大阪の眞似をしたいと言つて居る所であるし、馬關ょ於ても亦然りで、是は豫期の如くで尙

瀨戸内海のぐるりの港

を見て調べたのに、殆ど大阪を摸せざるものは無い、模せんとして能はざるものはあるけれども、模せんとする形迹が何れにもあつたからして、先づ大阪は此の瀨戸内を握つて居るものだ、大阪は瀨戸内の首だと云ふことも其時に感じたのである此頃は蒸氣も出來て、前に言うた如く奥羽の物が大阪までは往かずに、直ちょ東京へ來て商賣をする蒸氣が盛になれば諸方へ交通が頻繁になつて自から商業も一つの所へ集中することはなからうかと思つて、大阪の爲には多少心配をするかも知れぬけれども、此機ょ應ずる爲ょ大阪も

日本の最大なる港

を築いたからして、一方に於ては世界の大船を此處に集め、他方に於ては今日迄の商業の中心を、此港に依て繫ぐとも出來るやうな感覺もある

そこで瀨戸內を池と稱へたのは、地中海を羅馬の池だと言つたことに比較をしたのではあるが、是は我輩の大よ意思のあることである、誰れしも知つて居る通り一國の領分と云ふものは土地の上よ及ぶけれども

水の上

よも及ぶ、能く言ふ大砲の彈丸の屆く所は一國の領海である、又大砲が無くとも三哩は領水であると極つて居る如く思ふが、同じ領水と云つても沿海と港灣と國內の水上とよ依つて

國權の及ぶ範圍

が違ふ、例へば遠州洋よ沿ふ遠江の所であれば、それを外國の船が無理よ通過するのを禁ずる譯には往かない、尙又其處を通過する內に、船舶よ犯罪が起れば、日本の國權を以て立入れないと云ふやうな論もある、是が內海よなると口さへ六哩、卽ち一方の沿岸から三哩づゝあれば、中はどの位廣くとも

其國の領海

になり得ると云ふ點もあるし、又此內に行はるゝ國權が沿海に行はるゝものより大なるのである、露西亞の如きは其口を土耳古に塞がれて居る

黑海でさへも自分の池

の如くに言うて居るのであるから、兩方の口が自分のものである國は、之を自分のものだと言つて何の不可があらう、併し唯之を領海の如く言ふだけでは滿足しない先づ之を日本の領海とすることは誰れも異論は無からう、唯千島艦とピーオー會社のラブエンナ號と衝突した時に上海に於ける、英吉利控訴院が、日本帝國政府の控訴した時に其判事の判決に曰く『瀨戸內は世界の公道であるから、其處の上よ起つ

た事は、日本の法律を以て定めることは出來ない』と云つたが、是は其判事一個の見に過ぎずして、其事件が英國の樞密院よ上訴せられた時に、我々は堅唾を呑んで英吉利の樞密院が此邊をどう決するかと思つて居つたが、幸か不幸か、樞密院は此點よ少しも言葉を容れず唯條約の解釋の點から日本政府の勝にしたが、英吉利政府は迚も此判事の言うたことを認めないと思ふ、又認めるやうなことがあつては、夫れこそ日本政府が默つて居るべきでなからう

先づさういふ愚論は殆ど後來無いにしろ、瀬戸内海は外國人同士、若くは日本人と外國人と屢衝突する所であるから、先に上海の判事の言うた如き愚論を爲す者があるかも知れず、又時勢の如何に依り、政界の點から其不理なるを知りながら、それに雷同する國も人民もあるかも知れぬからして、寧ろ斯かる愚論の起らざるやうに豫め防ぐよ若かずと思ふが、それに就ては此の瀬戸内を眞に日本の池、卽ち

近江の琵琶湖に於けるが如き感覺

を、日本人自から持つて往かなければならない、例へば露西亞のフヒンランド灣に於ける如く、初めは露西亞と他の國との共有の如くであつたが、露西亞がフヒンランドを併呑してから、之を露西亞の領海の如くにしたと云ふことを、自分が日本に居る時に本で讀んだことがあるが、地圖を見てフヒンランド灣は大きいのに、どうして露西亞のものと認められたかと云ふことを疑つて居つたが自からバルチック海を渡つてフヒンランドよ到つた時に、豫想よりも此の灣の大きいことを認め、不審ながらに之を航海し終つて、クロンスダットの砲臺の下を過ぎつた時に、成程此砲臺があるから之も露西亞のものであらうかと、實よ感心したことも記憶して居るがそれと比べれば我瀬戸内海の如きは實よ

溝の如く池の如きもの

である、口の小いことは言はずと知れて居るので其中には前にも言ふ如く、何百と云ふ島嶼が散在して居るのであるから、どの方面から言うても之を大海と言ひ得る

餘地が無い

茲に一つ考へることは、此處の上の運送が

海運になるか陸運になるか

である水の上を歩くものを陸運と云ふのは可笑しいけれど、運送法、海法などゝ於いて運送を分つて海運、陸運とすとある、斯う云ふ時には水の上であつても、例へば近江の琵琶湖、信濃川に於けるものは陸運に入れる、是は理窟から言へば、海運と陸運と分けて、陸の上と水の上とに分けて往けば宜いやうであるけれども、法律と云ふものはさう細かく理窟詰めに出來るものでない、先づ土の上を滊車が往くのも信濃川の上を小蒸氣が往くのも、同じものと認めて一括規定を下して居るのである、之と反對の例は亞米利加にミシガン、チューロス、ヲンタリオ等の五つの大きな湖水がある、立派な湖水であるけれども、大きくして殆ど海の如くであるから、之を亞米利加の法律では海として、其上の運送を海運とすと云つて居るので湖水も

海運とすることもあれば、又

小さい港灣の上の運送を陸運

とすることのあるもので不審でない

先づ斯く海運と陸運に分てば、陸運は陸上と湖川港灣と云ふことに我國法が分けて居るから、湖川の如きは先づ暫く措いて、港灣と云ふ港はどう云ふものか、灣の大きさはどうであらうか、灣は大ゝしては、メキシコ灣も、ホドソン灣も、ベンガル灣もあり、ビスケー灣もあつて、其程度ゝ限りが無いが、日本で港灣の灣と云ふのは、さう云ふ大きなものを言ふのではない、港若くは是に類似と云ふ位のものである、其事は何れ別に明かに論ずる機會があるとして、先づ港ゝ似たものであるが、斯く運送を陸運、海運に分け、海だけで言へば、海運、港灣運とゝ分ければ

瀬戸内海の運送

はどちらに入れるか、固より瀬戸内海を大阪灣、東京灣等の如き小いものに入れると云ふことはむづかしからうが、又太平洋、太西洋等に於ける運送と同じことにもなるまい、止むを得ずんば其中間に第三種の運送と云ふものを認めることゝすれば宜いかも知れぬが、是非何れかゝ入れなければならないとすれば吾輩は寧ろ之を港灣運の中に入れて貰ひたい、少々の無理を忍んでも斯くする方が宜からうと思ふ

此事に就ては大阪の關西濱船同盟本部の請求もあつたので、自分が洋行前に忙しかつたが、調査會から出張して如何ゝ極て宜かを調べたことがある、本部長の小幡平八郎君と書記二名程と、瀬戸内の航海に慣れて居る船長、大阪商船會社の事務員などを連て其人達の竟見も聞き〳〵、大阪の川口より發して既定の順路を經て馬關ゝ到つたとがあるが、是ゝ關する報告も多少精密なものをした積りであるが、大體は此海は寧ろ小さく見るべき者である、甚だしきは一時間位、長い所でも三時間か四時間で港に着いて居るので、是に十日も十五日も掛らなければならない運送に適用する法律を適用するは、船主の非常に迷惑になる、海員の雇入れ等の如きも重い手

續は必要でない、醫者のとでも太平洋の眞中で病氣が起ればどつちへ向いても七日も掛らなければならないから、醫者も必要であらうけれども、瀬戸内の船であれば言うて居る間に陸ゝ着いて醫者がある、空氣のことでも長い航海であれば空氣を良くしなければならないけれども、直ぐ甲版に出られるか陸に上がるものに、長航海に於ける如く空氣の流通などを考へなくても宜しい、完全にすればそれに越したことはないけれども、船主の利益、之に伴ふ旅客、貸主などの運賃の安くなると云ふやうなことも考へてやらなければならないと云ふやうな、マア意見であつた、唯播磨洋、周防洋のやうな大きなものがあるが、之は例外として多少考へて置く、詰り、

小いものゝ見るのを原則

とし、此二つの大きなものだけは、少し例外を設ければ宜いのである

デ今瀬戸内航海のことは遞信省其他の考案中であるが、自分は他まで此事は當局者に向つて主張する、成るべく日本人が此海を

小いものゝ見れば見る程日本の得

である、小い考で世界に出たことが無いと、此海も海らしく思はれるけれども、世界を視た者の眼からは少しも

海らしくない

それで法律を拵へるよも、之を小い海と見るのと大きい海と見るのとで、日本の國權に關する、其譯は自分達が外國の事を論ずる時に、アレは彼の國の領分でない、彼の國の權利でない、何となれば彼の國の法律自から、自分の領海でないやうに規定して居るぢやないか、權利の拋棄と見るやうな規定をして居るぢやないかと、斯う云ふ論鋒で推すのであるから、若し我國の瀬戸内を非常よ大きな海と見る時には外國人が是は天下の公道である、世界の共有の海である、日本の港灣でない、何となれば日本の法律自らが、此上の運送を太洋の運送と同じ規定の下に置いて居るぢ

やないかゝの議論が生じ得るからである、それも日本海の如きとか遠州洋の如く、迚も港灣と見て行政が出來ぬとならば兎も角もであるが、自分は是は出來得るものと信ずるから斯く言ふのである、併し自分は行政官よもあらず、航海者よもあらずよ言ふのであるから、間違ひかも知れぬが、多少其の專門家の考へも聞いたし、殊に自分が或は海軍の人々或は商船の人々と、度々此處を視察して、又行政官の見込も聞いたのである、されゞ日本が之を我國のものと見做すよは、十分に設備を此上に爲し或は航路標識を拵へ、或は燈臺を拵へ、言ふまでもなく必要な箇所には砲臺を置く、要塞を置く、行政官廳を置くと云ふやうなことをすれば、必ず日本のものゝ如くになる、是も自分が獨逸からデンマークに渡り、デンマークから瑞典よ渡り十四五世紀以來世界の問題となる海峽を見て、沿革等を調べた色々の理由もあるけれども、設備を常よ彼の國がやつて居るから彼の國の領海である、此後よも云々の設備をすれば、世界は之に向つて通行料を拂ふとか、先づ設備をするのは私法上で言ふ

先占の權利

を示すが如き論鋒を用ゐて居る、又デンマークの海峽の近邊の設備は、アノ人口三百萬に足らない小國たるデンマークの設備としては、感必ゑ堪へない程の設備があるが、之ゑ倣はんことを我當局者に希望する

是と同一の目的を

今回の博覽會

ゑ於て私は望むのである、其の方法は一つの船を拵へて、それに西洋人を乘せて到る處を見せて左を向いても日本、右を向いても日本の島、何處までも日本だと云ふと、日本は池が澤山集つて之を成して居ると云ふ感覺を起すことになるのである

それで博覽會に就て

外國人を優待

する方法は如何にすべきかと云ふことを、大阪の有志者が考へて居る風說を聞いたが、是も自分がやらずゑ言ふので甚だ潛越だけれども、一案として提出しやうと思ふのは

船の巡遊

である、大阪の道路を改良するも宜からう、ホテルを改良するも宜からう、公會堂も宜からうが、どの位良くしても氣の毒な言ひやうだが、大阪位な町は世界に幾つもある、何れも良くしなければならないが、した所が可なりのものがあると云ふ位の感覺である、ホテル、公會堂に至つては迎も西洋人が滿足するだけのことは出來ないと斷言する

所が獨り此の瀨戸內で遊ばすと云ふ點に於ては、世界に餘り無いことが出來るであらうと思ふ、西洋人の日本を賞めることは先づ富士山と瀨戸內である、日本人が富士山を言ふ如くに西洋人は言はない、寧ろもつと大きい

瀬戸内の全體としての景色

を彼等は賞める、デ自分も此内海は綺麗なものであるが、若し世界に之より良いものがあれば訪れないと思つて、餘程此點を注意して世界の海國を歩いて見たが、己惚れかは知らないが、日本の瀬戸内に及ぶ景色は一つも無かつた、固より壯嚴なものもあらう、宏大なものもあらう、又山水の奇なるに至つては瑞西にもあり、瑞典の海岸にもあるけれども、瑞西には海が無く瑞典のストックホルムが綺麗であつても、水が日本ほど綺麗でない、又範圍も割合ゑ小い、到底日本の

紀淡海峽を渡つて馬關

に出るまでの景色には及ばない

或は、山陽鐵道其他の鐵道があるから、西洋人は船を拵へても乘るまいと云ふ者があるが、是は

西洋人の性質

を知らぬからの論で、西洋人は日本人の如く引込むことを好むものではない、雪が降つても出るし雨が降つても出るし、又出るゑも

好んで水に出る

彼の伯林あたりでは原の眞中ゑ都があつて海には遠いけれども、夏は皆黑海に沿ひバルチック海に沿ふ所ゑ遊びに往つて

海で樂む

殊に今度の皇帝陛下

獨逸の將來は海に在り

と言はれて、御自身に遊船をた拵へて、其の進水式に皇帝は、ヘンリー親王を御遣はしよ今度の新造船を亞米利加で拵へて、始終船で歐羅巴をた遊びになるし殊になるのを見ても其の熱心が分るが、上の好む所下之に從ふと云ふ譯か何かは知らないが、獨逸人民は今非常に水を好んで居る

佛蘭西人

は昔から之を好むことが歴史にあるし、殊よ

巴里博覽會

で彼の僅なる、セーヌ川を利用して隨分船を浮かせた、況や

英吉利

よ至つては言ふだけが無益であるが、一言して見れば休日などは

テームス河は船で一杯

になる、ちよつとの間があつてもテームス河口まで往く、河口と云ふも難波橋から安治川へ往くやうに思つては違ふ、倫敦は港と云ひながら海岸にないのである、倫敦橋からテームスの河口まで凡そ六十哩、ちよつと河口まで往つて來ると云つても二十四五哩遊びよ往くので、それを以て足れりとせず、テームス河を下つて北部の海岸へ往つて、一日二日を費して、

瀘車のあるのに船

を雇つて居る者を屢見る、又急ぐ者は瀘車で大陸を往くけれども、急がない者は或はハリッチ、クキンスホロー、或はハローなどから皆船に乘つて遊び半分に出掛ける、殊に何事でも

お祭や祝ひ事があれば船

を使ふ、此前の女皇陛下の六十年祭の觀艦式の催しと云ひ、又新皇帝の戴冠式にも同じく先きに言ふた、ポツマス軍港の前で

世界無比の大觀艦式

を行はんとするよ由ても分る

此の海好きの人間而かも、日本へでも來て見やうかと云ふ人は、皆海のことを知つて居る人で、殊に左から來れば地中海を渡り、印度洋を渡り、右から來れば太平洋を横斷するのであるから此池で遊ぶ位の船は何とも思ふものではない

眞の極樂

よ思うて此の瀨戸内を巡り遊ぶであらう、斯う言ふ時に自身が小さい考へで、船よ皇ふとか、船が危いから、西洋人も乘らないだらうと云ふやうな、ケチ臭い考へはしない方が宜からう、殊よ

米國

が此頃海軍を盛にし、海商を盛にし、比律賓を取り、支那と貿易を盛にする點から日本に船を誂へる位のことであるから、そこで日本へ來て日本の海を見て樂むであらう

マニラから歸つた者

が皆此の瀨戸内を通つて賞めて歸つたから、米人の中で

遊心勃々

最も瀨戸内を見たいと云ふ人の澤山あるのは、吾輩の所へ友人から手紙を書いて送る者がある、而して幸に英人と米人は一番金を綺麗よ澤山使ふ人間であるから、先づ失禮ながら

大阪人

に此點に就て一つ注意して貰ひたい

そこで益〻吾輩の實行し得ないことで困るが

如何なる船

を拵へて、如何に設備をすれば宜いかであるが、是は專門家、殊に船舶のことを商業にして居る人々に考へて貰はなければならないが、凡そ大きくて千噸、小さくて三百噸で宜からう、固より是等はお客次第であるから、其時の事情に從つて取捨するとして、又多勢のお客があれば船數を增すとして、唯一つとすれば先づ其中を取つて五百噸でも宜いが、最も新しい、最も綺麗な、總てが

西洋風に設備

された船でなければならない、遊ぶ爲めである、愉快をする爲めである、客人を樂ます船であるから、此點は十分に注意して、之に乘込む海員も、贅澤を言へば外國へ往つて來た者ばかりを選む、備へ附けの道具なども西洋人に向くやうにする、而して廣告して何日の何時に

大阪の川口

を出ると極めて、其の出る場所を最も便利にし、且つ其船の出る周圍を今の大阪の川口の如く汚なくせずよ、多少綺麗にして船の出る前には其處で遊んで居られると云ふ位にして、金があれは船に日本、西洋の

樂隊

を載せて、さうして神戸に寄港するとか、高松に往くとか、それから尾道、廣島、宮島等に到る

案内記

も添へて、殊に廣島の如きは紀念の殘つて居る

大本營

の地であるから、其事なども成るべく注意する如くし

日本三景の一

たる宮島の如きも、容易く便利に見せしむることよして、好きな者は上つて、厭な者は船で見ると云ふやうなことにもする、是等は吾輩自からが歐羅巴に於て屢試みた所であつて、甚だ愉快よ感じたから、此事を日本にも勸めるのである斯の如くにして到る處日本の名所々々であれば、瀬戸内海に居るのか、日本の名所々々を經廻つて居るか、知らず識らずの内よ

瀬戸内といふものは日本の河

の如きものだ、池の如きものだと云ふ感じが起つて、而して毎日出る人が大阪の川口を根據として出るからして、恰も

瀬戸内海は大阪の内海

だと思ふやうな感覺も起る、是は何も彼も知り抜いて居る人間には、可笑しく思はれるかも知れないが、唯遊びよ

世界を漫遊

すると云ふやうな人は、何でもない事よ感覺の起るもので、例へば吾輩が倫敦でも巴里でも伯林でも、ストックホルムでも、興行して居るのを見た

日本の「藝者」の芝居

で『長崎、函館、横濱ホイ』と云ふ歌を唄ふから、西洋人が神戸大阪を知らない人でも、長崎函館を知つて居つて、非常に其事を言ふ、又從つて注意することになつて居る

そこで此の立派な瀬戸内が西洋人の目に留つて、殊に宮島などの景氣を見て、さうして大阪の川口から出たと云ふことを

紀念

よ持て歸れば、非常に誇つて無暗に話をして、それと同時よ芝居よ仕組むかも知れぬ、さうなつて呉れば、僅かの客を喜ばして、一擧して内海は日本のものだと云ふ頭を起させ

大阪を内海の覇者

らと認むることにならうと思うので、誠よ空想に近いやうな事にして、且自此仕事

は能くせないと言ふに拘はらず、一言

有志者の閲讀

を仰いで、其實行を望むのである

「附錄」博覽會と瀬戸内海 終

モスリン友禪染
蝦茶袴地製造販賣

大阪市北區中ノ島四丁目
岡島千代造
本店 電話西五一二番

大阪市東區本町堺筋西へ入
岡島支店
電話東三三五番

簿記帳製造　寫眞版コロタイプ
石版、活版（各種印刷）
弊店は今回歐洲最近の針金綴機械を輸入し帳簿類は主として
針金を用ひ候事に相改め候に付何卒製品御檢査の上倍舊の御
愛顧を賜り度伏而奉願上候
大阪市東區高麗橋四丁目
三和印刷店
（電話特東三一六〇番）

紀念繪はがき　博覽會場機械館南手
博覽會俯瞰圖
御手土產としては至極適當の品に御座候
三和印刷店出張所

明治三十六年三月二十日印刷
明治三十六年三月廿五日發行

不許複製

定價金拾貳錢

著者　木崎好尙
　　古我雅芳

發行人　大阪市北區上福島中一丁目番外百九十六番屋敷
　　宇佐美重太郎

印刷人　仝　市東區高麗橋三丁目十番地
　　井上吉太郎

印刷所　仝　市東區高麗橋四丁目
　　三和印刷店

C-12

無線電信、天然色
寫眞、萬花光彩簡、

嬰兒化育器、X光線、
電氣全用頂改意、

UNQUESTIONABLY THE MOST
BEAUTIFUL AND FASCINATING NOVELTY
OF THE PRESENT DAY.

唯一之興餘

Carmencella

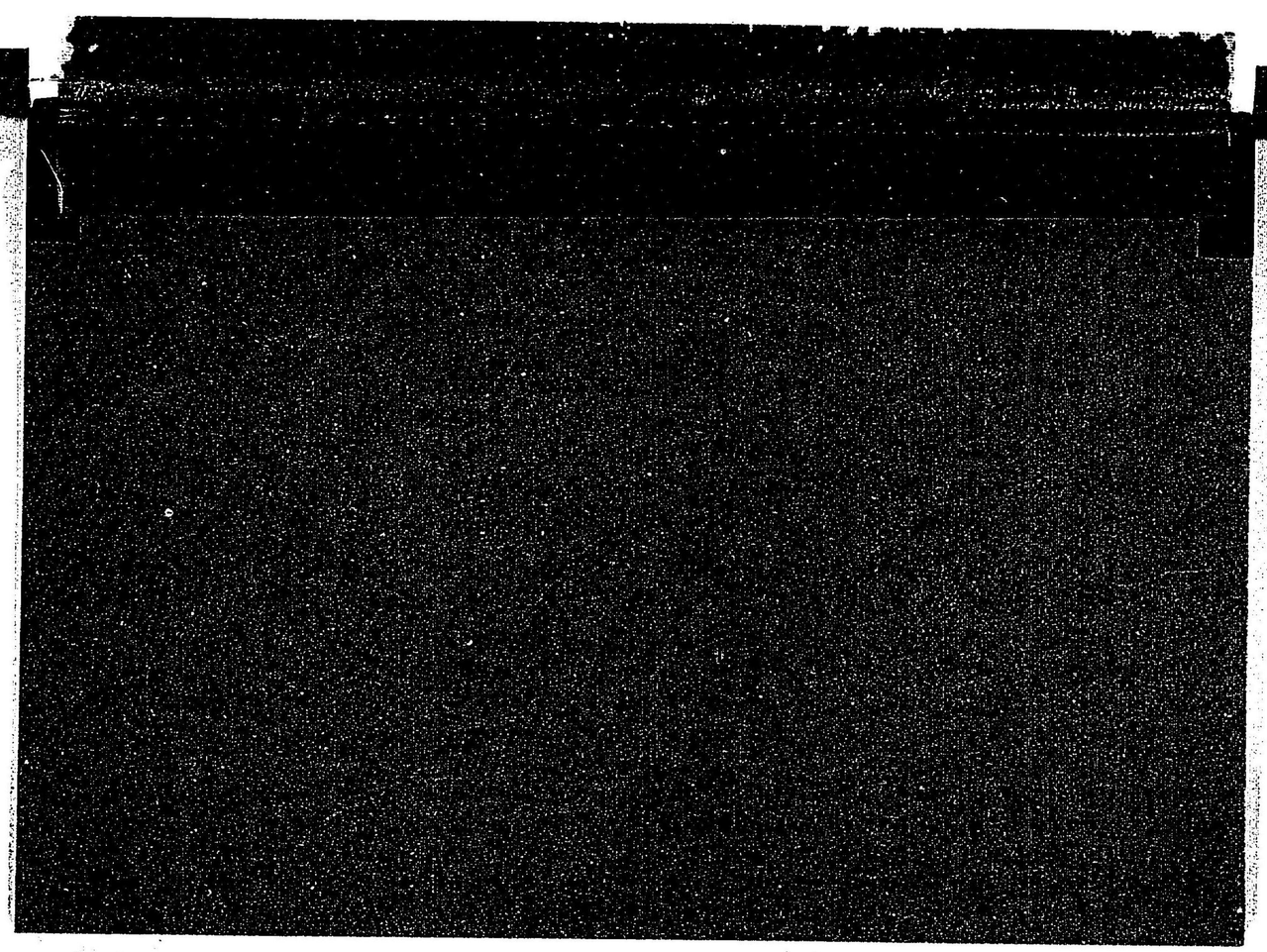
Fire Dancer and
Terpsichorean Marvel.

北正の堂樂奏謳業工

不思議謳

快壯雅雄 舞の焔火 爛燦妙美

米國女優カーマンセラ嬢演藝



第五回内國
勸業傳覽會案内記

木崎好尚
古我雅芳

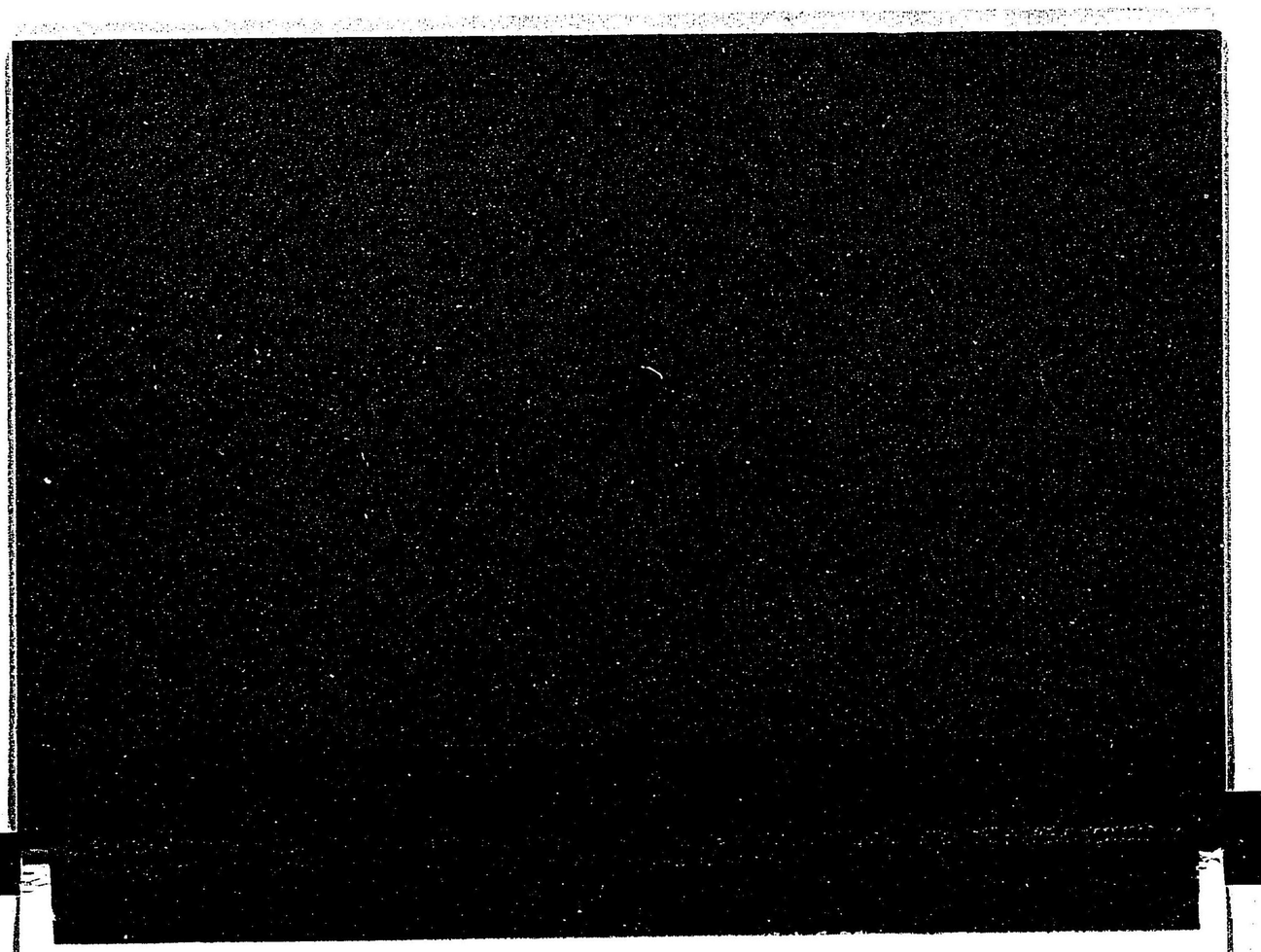
国立国会図書館

025583-000-2

特49-127

第五回内国勸業博覧会案内記

木崎 好尚
古我 雅芳／著

M36

ADC-3074